

情報学部情報学科の教員養成に対する理念・構想

情報学部は、松山大学の校訓「三実」（真実・実用・忠実）の精神を踏まえ、情報学に関する高度な専門知識・技術を身に付け、情報技術から新しい価値を創造し、社会に供給していく人材を輩出することで、持続可能で活力ある社会の実現に貢献することを教育目的に掲げる。この目的を達成するため、他者と協働できる力の汎用的技能及び現代社会に必要な教養を身につけ、情報・デジタル技術の導入や運用を推進していく人材を養成することを教育目標とする。

こうした情報学部情報学科の性格・目的にもとづき、教員養成においても「情報学に関する専門的な知識と技術を備え、高い課題発見・解決能力とコミュニケーション能力を身に付けた教員の養成」を理念とし、高等学校の情報科教員を養成するための教職課程を設置する。

この理念を実現するにあたり、教員養成の構想として、各年次で教科専門科目と教職科目を適切に設定し、重層的な学びへとつなげていく。

- 1年次：情報社会・情報倫理を中心に、情報技術の役割や情報倫理、知的財産の保護等、現代社会の諸問題を情報学の観点から理解するための素地を形成する。また教師論や教育原理、教育心理学等の履修から、教職に関する基礎的知識や態度を身につける。
- 2年次：情報システムの原理やソフトウェア開発等に関する専門科目を通して、情報技術をよりよい社会の実現に活かすための知識や技能を修得する。教職科目では生徒の学習・発達に即した授業内容・方法について考察を深めるとともに、指導案の作成や模擬授業などを経験し、教材解釈力や授業構成力を身に付ける。
- 3年次：2年次までの学修のもと、物理シミュレーションや情報システム開発等、情報処理の発展的な知識やプログラミングスキルを身につける。教職科目においても、それまでに修得した知識理解を踏まえ、教職への意識を高めることで、翌年度の教育実習までに求められる実践的指導力を涵養する。
- 4年次：3年次までに培った学修のもとに教育実習を行い、学校現場や教師・生徒に対する洞察を深め、自己の課題を見つめ直し、不足している知識や技術等を補い、教職課程の総まとめを行う。

以上の理念・構想から、「情報学の専門的知識・技術及び現代社会に必要な教養を身につけ、情報技術から生徒たちの新しい価値を創造することができる教員」を情報学部情報学科の目指す教師像とする。

情報学部情報学科に教職課程を設置する趣旨

○高等学校教諭一種免許課程（情報）の設置趣旨

情報学部情報学科においては、情報科教員を目指す学生が情報学の専門知識を深く学び、教育実践の中で重要である課題発見・解決能力や、学校現場で要求されるコミュニケーション能力を培う。また、理論と実践の両面から情報学を体系的に学びながら、高度な専門知識と実践的技術を身に付け、データサイエンスや情報システム、情報デザインなどのデジタル技術を効果的に活用して社会に貢献できる力を養う。その中で、論理的思考力、課題発見・解決力、共感力、コミュニケーション能力、他者と協働できる力が身に付く。これらは様々な分野の職業で活かすことができるが、同時に、高等学校における「情報」を担当する教員としてそうした能力が発揮されれば、教育界に大きな貢献ができる。

絶え間ない技術革新が進む社会において、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決し、新しい価値を提供できる高校生の育成に貢献できることから、情報学部情報学科に情報免許課程を設置する意義がある。